

1

答え：⑧お好み焼き

解説：災害時には多くの方は行政が小中学校などに設置する避難所に行くことを想定しています。しかしながら、大規模災害時にはこうした公的な避難所はすぐに満杯となり、自主的にテントを張ったり車中泊をしたりして避難生活を送る方も少なくありません。こうした私設避難所は行政もボランティアもすぐには把握できないため、救援が来るのは遅れがちですが、秦さんは友人らと自主的に炊き出しをするなどして、自分たちで乗り切ろうとされていたことがわかります。

また、避難生活の食事は大変大きな問題です。非常食と言えばレトルト食品などが思い出されますが、被災初日や二日目は乗り切れても、栄養のバランスやバリエーションも求められます。お好み焼きは庶民的で比較的簡単な料理ではありますが、それすら作ることに苦労したというエピソードは、被災直後にどれだけ流通が混乱していたかを思わせますし、その中で、お好み焼きを完成させることができたことは、きっと当時の関係者にとって、大きな復興の希望となったことと思います。

2

答え：⑨炊き込みご飯

解説：独居の高齢者や失業者などで、社会的に孤立している被災者のケースでは、医療的ケアが必要であっても自覚がなかったり、自暴自棄になったりなどで、医療につなげられないケースも多々あります。このような問題は平時からあるものの、災害時にはこうした方々の存在が後になって顕在化します。例えば仮設住宅や復興公営住宅などで起こる孤独死はその典型です。その後の巨大災害の経験から、被災者の中には、自ら支援を求めることすらできないほど困窮した方々がいるという認識が高まり、被災者一人ひとりの状況を適切に把握し必要な支援につなげる「災害ケースマネジメント」の考え方が発展してきました。そのような動きを支えたひとつは、林さんのように、現場で感じた問題を解決しようと自ら行動するボランティアの力でした。

3

答え：③ショルダーバッグ

解説：東京電力福島第一原子力発電所は、地震直後に発生した津波により電源を喪失し、原子炉の冷却が困難な状況になりました。これを受けて、同原発の半径10キロ以内に、翌日の朝5:32に避難指示が出されました。この段階では、原発がどのような状態になっているのかについてはほとんど住民に知らされておらず、このお話のように多くの人々が「すぐに帰って来られる」と思い、着の身着のまま避難された方々が多かったようです。実際にはそれは数年に及ぶ長期避難生活の始まりでした。

原発事故による避難指示は、その後半径20キロ圏まで拡大され、最初に避難された方々の中にはさらに遠くに避難することを余儀なくされた方々もいました。このように、原発事故による避難は長距離の移動を伴ったことが大きな特色です。

4

答え：⑩ケーキ

解説：2004年10月23日に発生した新潟県中越地震は余震の多かった地震災害として知られ、震度5弱以上を記録した地震が12月28日までに19回も記録されています。このため、自宅そのものに被害がない方々も、余震を恐れてガレージや自家用車の車中で避難生活を送る方々が多くいました。

災害の発生によって、予定されていた様々な行事やイベントの多くが中止を余儀なくされます。赤塚さんもお自身の誕生日が震災の最中になってしまったので、お祝いをしてもらえるとはいきと望外の喜びだったと思います。他方、ご家族にとってみれば、ささやかではあっても誕生日祝いをするというのは日常を回復させることであり、お互い無事に生きていることを確認するための大事なイベントだったのかもしれない。

5

答え：②スーツ

解説：大規模災害後の学校の再開は極めて重要な課題です。教育という機能を回復させることはもちろんのこと、そして学校を通じた児童・生徒・学生・教職員のつながりを回復させることなど、その意義は計り知れません。

津久井さんが勤務していた大学の授業再開は、震災から2ヶ月以上経過した4月であったとはいえ、まだ被災地全域でライフラインが復旧していたわけではなく、5万人以上の方が避難所で生活をされていました。それでも、教壇に立つからには、ぼろを着ていくわけにはいかないというのは津久井さんのプロとしての矜持でしょうし、あるいは講義時間は震災のことを学生に思い出させたくないという配慮だったのかもしれない。

6

答え：④ボールペン

解説：原発による避難が、多くの人にとって着の身着のままであったこと、遠距離の移動を伴ったことはすでに述べた通りです。

鈴木さんは当時高校の教員をされていたため、避難が長期化するにつれ、生徒の安否確認も含め学校としての対応を避難先でこなす必要が生じました。生徒の名簿をはじめ業務に必要な書類も学校に置いたままだったでしょうから、電話連絡で得た情報を書き留めるための筆記用具が切実に必要だったと推察されます。ゴミ捨て場で物色したり、旅館で頼み込んで筆記用具を手に入れたというエピソードが、当時の対応の困難さを雄弁に物語っていると思います。